

地元との連携強化：地域社会への貢献

背景

1995 年、WHO 神戸センター（WKC）は WHO 執行理事会決議と阪神淡路大震災からの復興のシンボルとして神戸に設立されました。WKC は WHO 本部直轄の部署であり、グローバルな任務を背負い活動しています。同時に WKC は情報や知識を共有することで、生活と仕事をするこの地元に貢献したいと常に考えています。つまり、WKC にはグローバルとその地域・地元におけるそれぞれの役割があります。地元における役割の一環として WKC は関西地域の研究機関や地方自治体と連携し、共通の健康上の課題に共同で取り組もうとしています。また、WKC の研究や他の活動に関する研究成果をより広く普及できるよう、地域社会への貢献に努めます。

目標

1. 各国から得た教訓を共有し、UHC と SDGs へのコミットメントに基づく目標を共に達成することを目指し、国を超えた協力を促進する。
2. WKC の研究活動情報の広報に努める。
3. 神戸市や兵庫県のコミュニティにおいて健康の認識向上と啓蒙に努める。

進捗報告（2019-2020 年）

目標 1：国際協力を促進する

共同研究：WKC は引き続き、**地元の研究機関と連携**して健康に関する共通の課題に共同で取り組みます。WKC 2018～2026 年研究計画の 3 つの研究テーマにおいて、関西地域および研究パートナーに関連する課題の特定に努めています。このように、関西地域での経験から習得したことは WKC の世界戦略プログラムの一部となっています。また、関西地域の研究者チームと国際的な大学研究者をつなぐ機会の提供にも努めています。その結果、世界的視点で研究するスタンスを維持しながら、関西地域における関係の強化と研究ネットワークの拡大が可能になります。例えば 2020 年には、関西地域の研究者が世界の他の地域の研究者と行う共同研究を支援する新しいプロジェクトが開始されました。これらには、兵庫県こころのケアセンター、神戸大学、大阪大学、大阪医科大学、兵庫県立大学、京都府立医科大学、和歌山県立医科大学、奈良県立医科大学との共同研究が含まれます。共同研究の詳細を、**添付文書 1** に示します（[添付文書 1：関西共同研究プロジェクト一覧](#)）。

視察：また、WKC はアジア開発銀行（ADB）と共同でバングラデシュの地方自治体高官向けの視察を計画しています（2019～21 年）この視察は、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ、防災施策、およびごみ処理と保健福祉の総合管理に関わる優れた都市計画について、神戸市とその地域から学ぶことを奨励しています。2019 年の視察では、バングラデシュの地方自治体当局者が本国において社会福祉を促進することができるよう、神戸市やその近隣地域で教育を提供しました。これらの視察は、WHO 本部の関連部局と WHO バングラデシュ・カントリーオフィスが連携して実施しています。バングラデシュから地方自治体職員を追加招へいするフォローアップ視察を 2021 年に予定しています。

災害・健康危機管理（Health-EDRM）に関するリサーチネットワーク（TPRN）の事務局：

WKC は、国際的専門家や関西に拠点を置く専門家で構成された「Health-EDRM に関する WHO グローバルリサーチネットワーク（TPRN）」の設立に重要な役割を果たしました。WKC はこのネットワークの事務局として機能しており、これは世界初のことです。ネットワークを通じた重要な世界的共同活動の 1 つが「災害・健康危機管理の研究手法に関する WHO ガイダンス」の作成です。日本から 12 名の専門家が共著者として参加し、日本における災害リスク軽減の歴史と成功事例を共有しました。これには、地元である兵庫県立大学および兵庫県こころのケアセンター研究者が書いた阪神淡路大震災（1995）での経験が含まれてい

ます。WKC は、兵庫県および神戸市で TPRN の活動を進めるため、3 つの主要な会議を主催しました。アジア太平洋災害医学会（2018 年）での Health-EDRM の研究ニーズに関する神戸専門家会議、TPRN 代表者会議（淡路島）および日本の専門家のための WKC フォーラム（淡路島、2019 年）、日本災害医学学会学術集会（神戸、2020 年）での日本の状況を踏まえた Health-EDRM 研究に関するワークショップです。

海外からの訪問者および国際会議

WKC は 2016～2020 年の間にアフリカ地域、アメリカ地域、東地中海地域、欧州地域、南東アジア地域、西太平洋地域の全 WHO 地域より 30 名以上の訪問者を受け入れました。2016 年以降、12 の国際会議を開催、そのうちの 7 会議は 2019～20 年に開催されました。

1. 2020 年 2 月：WKC は日本災害医学会と合同で、WKC フォーラム「これでいいのか、災害医学研究～よりよい Operational research と研究成果の活用を目指して～」を、神戸で開催。
2. 2020 年 11 月：WHO「看護師と助産師の年」記念 WKC オンライン・フォーラム：最前線を担う看護師～グローバルヘルスへの貢献と展望～（関西地域の看護学校を含む兵庫看護協会との共催）。
3. 2019 年 10 月：「災害・健康危機管理に向けた国際研究協力の推進—世界的な科学的エビデンスの確立における日本・兵庫県・神戸市の貢献について」 WHO 本部の災害・健康危機管理担当部門、WHO 4 地域事務所、TPRN の共同議長、日本の災害・健康危機管理専門家約 50 人および学生が参加し、WHO 災害・健康危機管理に関するグローバルリサーチネットワーク（TPRN）代表者会議の結果と WHO の災害・健康危機管理研究課題に向けた戦略が日本の主要関係者に伝えられ、災害・健康危機管理の研究における日本の今後の役割が討議された。兵庫県立大学と共同開催。神戸新聞による会合の前後と開催中の 3 件の記事を含め、広く報道された。
4. 2019 年 10 月：第一回 TPRN 代表者 会議。上記の会議に続き、これからの研究協力に焦点を当て討議がなされた。
5. 2019 年 10 月：「支援技術」第 17 回国際義肢装具協会世界大会（ISPO） このフォーラムは、兵庫県立総合リハビリテーションセンターおよび WHO 本部と神戸にて共催された。
6. 2019 年 10 月：WHO/WKC-ADB ワークショップ—アジア開発銀行（ADB）と提携し、バングラデシュの 26 名の地方自治体高官向けに視察事業を神戸にて行った。神戸を含む関西地区の事例から保健・社会福祉分野の強力な都市計画・管理について学ぶことを奨励するものである。
7. 2019 年 1 月：官民連携の推進—保健医療システムのレジリエンス、SDGs、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）達成のため、世界全体の保健医療サービスの持続可能性と利用のしやすさを改善。20 を超える国際的な専門家が保健医療サービスの価格設定に関する報告書をまとめるため、意見交換を行った。

目標 2: WKC の研究活動に関する情報の広報と普及に努める

WKC フォーラムは、WKC の研究および私たちが暮らす地域社会への貢献を広報し普及させるための重要な手段です。WKC は、年に最低 3 つのフォーラムを開催することにコミットしています。その参加者は学術界や一般市民です。2019～2020 年には、次の 7 つのフォーラムを開催しました。

- 2019 年 2 月：「高校生国際問題を考える日」を、兵庫県教育委員会および大阪大学と共同開催。兵庫県の高校生を中心に約 500 人の生徒が参加し、「持続可能な開発目標」への貢献について意見交換。
- 2019 年 10 月：第 17 回国際義肢装具協会（ISPO）世界大会における「アシスティブ・テクノロジー」。兵庫県立総合リハビリテーションセンターおよび WHO 本部と共同開催。神戸市にて開催。
- 2019 年 10 月：「災害・健康危機管理（Health-EDRM）のための国際的な研究協力の加速—グローバルな科学的証拠の収集への日本／兵庫県／神戸市の貢献についての対話」。WHO 本部と 5 地域事務所から Health-EDRM 専門家、英国公衆衛生庁と香港中文大学から TPRN 共同議長、Health-EDRM の日本人専門家 50 名、および地元大学の学生が参加。WHO グローバルリサーチネットワーク代表者会議の結果および今後の WHO Health-EDRM 研究アジェンダの戦略を日本の主要ステークホルダーに

共有し、将来の協力の可能性、日本の地域貢献について検討。兵庫県立大学と共同開催。神戸新聞による会合の前後と開催中の 3 件の記事を含め、広く報道される。

- 2020 年 2 月：「高校生国際問題を考える日」を兵庫県教育委員会および大阪大学と共同開催。兵庫県の高校生を中心に約 500 人の生徒が参加。オリンピック・パラリンピック競技大会を踏まえ国際問題について意見交換。
- 2020 年 1 月：「アルコール啓発フォーラム」。兵庫県民会館、兵庫県、（日本の）厚生労働省と共同開催。アルコールの有害な使用を防止し対処する対策の状況について協議。
- 2020 年 2 月：「災害医学研究」フォーラム。日本災害医学会および兵庫県災害医療センターと共同開催。
- 2020 年 11 月：「看護師と助産師の年」記念オンライン・フォーラム：最前線を担う看護師からグローバルヘルスへの貢献と展望～を、兵庫県看護協会と共同開催予定。関連する関西の看護学校も参加の見込み。

ウェブサイトとソーシャルメディア：ウェブサイトは、WKC の業務プログラムと現在の研究活動に多くの人がアクセスできることを目的としています。2018 年 7 月、新しいウェブサイトを二か国語で立ち上げました。ウェブサイトでは、3 つの研究テーマ、個別プロジェクト、地元との連携強化活動が、英語と日本語で詳しく説明されています。ウェブサイトは、ツイッターフィード、YouTube アカунツによって補完されています。広報担当の専門家と連携し、英語と日本語の二言語による短いニュースストーリー、プロジェクト概要、研究者インタビュー動画、ツイッターでの定期的なツイートなど幅広いマルチメディアを活用して WKC アジェンダに関する情報をより広く公開しました。その結果、オンライン活動へのアクセスは増加し、地域のおよび世界的に新規閲覧者を獲得しました。

この戦略は目に見える結果をもたらしています。2019 年 4 月以降、ツイッターおよびウェブサイトでの活動を着実に増やした結果、WKC ウェブサイトへのアクセス数は増加しました。ユーザーの約 6 割が日本国内でアクセスしています。このキャンペーンによりウェブサイト、ツイッター、メディアを統合すると、アクセス数とソーシャルメディアにおけるフォロワーの増加が見られました。

2020 年第 2 四半期から、COVID-19 特設ウェブページ、および YouTube とツイッターでの COVID-19 のリスク・コミュニケーション・キャンペーンを開始し、信頼のおける技術的および一般的な情報提供に大きく貢献しています。主要な掲載にはツイッターで 300 万回の閲覧、WKC のウェブサイトには 100 万を超えるアクセスがあり、ツイッターのフォロワー数はわずか数ヶ月で 1000 から 6000 に増加しました。

活字メディアとの交流を拡大する：メディア連絡先リストの更新および必要に応じたメディアとの関与に重点を置きました。例えば、2019 年 10 月 17～18 日に淡路島で開催された「災害・健康危機管理（Health-EDRM）に関する WHO グローバル・リサーチ・ネットワーク代表者会議」に関する記事は、神戸新聞に 3 件、朝日新聞に 1 件の掲載を含め、多くのメディアに掲載されました。その他に、ここ数ヶ月ではラオス人民民主共和国との認知症に関する共同研究が国際誌 The Diplomat に掲載されました。2020 年には COVID-19 に関して多くの記事が出されていますが、WKC はそのゲートウェイとしての役割を果たしています。パンデミックの状況下で、WHO 西太平洋地域事務局（WPRO）および本部の広報部門と連携し、全国および地元メディアに重要な情報を提供し（毎日放送のミント！、読売新聞、読売テレビ、TBS テレビ、共同通信、NHK、トムソン・ロイター、テレビ朝日、日本経済新聞、東京新聞、神戸新聞、毎日新聞、フジテレビ、中日新聞、および静岡オンライン）、WHO からのアウトブレイクに関する最新情報へのアクセスを可能にしています。地元の読者向けに、神戸新聞と連携して COVID-19 の予防に関する 1 ページの特集記事を提供しました。主要なメディア報道を添付文書 2 に示します（添付文書 2、メディア報道）。

各研究プロジェクトの研究結果を拡散する広報計画：研究プロジェクトごとに、成果の広報の方法を特定します。具体的には、従来型の学術論文、研究開始時と終了時の研究概要（日英）、ウェブ上の研究概要説明の更新、研究者インタビュー、ツイッター、特定の研究プロジェクトや研究者の動画などです。また、地元である神戸新聞や現地および全国の記者クラブなどとより強い繋がりを構築し、重要な研究結果やイベントのプレスリリースを発表しています。

目標 3: 地域社会で健康の意識向上に努める

学生への講演: WKC は小中学校、高等学校、大学を訪問し、生徒に向けて WHO と WKC の活動に関する講演を行なっています。2019 年は神戸市を含む兵庫県内で 24 回の講演を行いました。2020 年には現在までに、学校と大学の学部を対象に 7 つのウェブセミナーや講義を実施しました。

地域の委員会への参加: WKC 職員は、地域の技術委員会や会議への参加を通じて、住民の保健向上を図ることに努めます。2019~2020 の 2 年間で次の委員会に参加しました。

- 新型コロナウイルス対策に関する兵庫県専門委員会
- 兵庫県受動喫煙防止対策検討委員会
- 京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻社会疫学分野 外部諮問委員会
- 神戸市健康創造都市 KOBE 推進会議
- 神戸健康・医療戦略会議
- 兵庫県新型インフルエンザ等対策有識者会議
- ひょうご・神戸健康危機管理会
- 神戸市新型インフルエンザおよび他の新興感染症の指定病院に関する会議
- 神戸市認知症の人にやさしいまちづくりに関する有識者会議
- 神戸市ヘルスケア・サービス開発支援事業に関する有識者会議
- 国際防災・人道支援協議会
- 国際復興支援プラットフォーム (IRP) 運営委員会
- 神戸検疫所感染症対策訓練
- 2025 日本万国博覧会誘致委員会

さらに、2020 年 1 月には、兵庫県の要望に応え、「アルコール関連問題啓発フォーラム in 兵庫」において、アルコールの有害な使用に取り組む WHO の戦略を共有しました。

WHO 感染症流行情報の翻訳: WKC は、グローバル WHO 感染症流行情報 (DONs) の判別と翻訳を続けています。翻訳作業は、神戸・大阪・関西空港の各検疫所、および成田空港検疫所と緊密に連携して行われていますが、加えて、新型コロナウイルス対策に関する兵庫県専門委員会の技術的な支援も受けています。2019 年末までに 38 個の DONs を翻訳し、厚生労働省のウェブサイトに掲載しました (www.forth.go.jp)。2020 年には、DONs の翻訳を続けながら、COVID-19 に関するさらに多くの技術的ガイダンスの翻訳を行っています。地方自治体および地方の検疫所に提供した DONs のリストを添付文書 3 に示します。 ([添付文書 3、DONs 翻訳リスト](#))

COVID-19 に関する WHO ガイダンスと公開情報の翻訳: 地方の政策立案者および住民のニーズに応えるため、2020 年 2 月以来、COVID-19 に関する適切で正確な情報を日本語で提供してきました。COVID-19 専用ページを WKC ウェブサイトに作成し、WHO の世界的状況報告、WHO 技術的ガイダンス、一般市民向け情報の日本語版を提供しています (https://extranet.who.int/kobe_centre/ja/covidを参照)。統計と情報を日々更新しており、この情報は地方および全国のステークホルダーに共有され、数千のフォロワーにツイートされています。パンデミックが発生して以来、WKC のスタッフ 8 名が適切なガイダンスおよび公開情報の特定、翻訳とその正確性のチェック、およびウェブサイトやツイッターを介した情報の広報と普及に勤務時間の 10~80% を費やしています。

2020 年 8 月末までに、66 件の WHO 技術的ガイダンス文書、および不安や迷信に対するアドバイスや簡単な Q&A を含めた 38 件の一般市民向け文書を翻訳・公開しました。どちらもウェブサイト、ツイッター、YouTube で公開されています。全てにおいて、医療従事者および一般市民のフォロワーやアクセスが増えています。日本語の COVID-19 ページには 50,000 回超の閲覧があり、6,000 人を超える人々が WKC オフィシャル・ツイッターをフォローしています。また、COVID-19 の情報は、読売新聞、毎日新聞、神戸新聞、フジテレビなどの新聞やテレビの取材を通して提供されています。地元の読者向けには神戸新聞と連携して COVID-19 の予防に関する 1 ページの特集記事、および神戸医療産業都市（KBIC）のニュースレターに特集記事を掲載しました。これらの取り組みのため、WHO ジュネーブ本部および WPRO の広報の専門家と緊密に協力してまいりました。66 件の WHO 技術的ガイダンス文書と 38 件の一般市民向け文書を、添付文書 4 に示します（添付文書 4、和訳し公開した WHO COVID-19 関連文書のリスト）。また、添付文書 5 に、地元メディアに掲載された COVID-19 関連記事を示します（添付文書 5、COVID-19 関連文書のメディア報道）。

地元におけるコミュニケーションの強化：WKC と神戸グループは、定期的なコミュニケーションの強化に取り組んでまいりました。2019 年 7 月、および 2020 年（バーチャル）に、将来の研究や地域エンゲージメントについて、これまでの進捗および今後の計画を話し合う事業検討会議を開きました。WKC は定期的に JCC 理事会にも参加し、業務の進捗状況をレビューしています。定例会議では、さまざまな議題の中から、地域エンゲージメント活動やコミュニケーションの強化に焦点を当てて検討しています。また、2019 年および 2020 年には、神戸グループが毎年 11 月に開催される諮問委員会（ACWKC）で重要な役割を果たしました。2020 年には、WKC と神戸グループは、両者の職員の健康と安全性のため、書面形式およびオンライン形式の会議を開始しました。

今後の計画案（2020-2021 年）と現在の活動

目標 1：国際協力を促進する

WKC は研究計画の 3 テーマにおいて、関西の研究機関と海外の研究者との協力を推進する優れたアプローチを今後も拡大していきます。現在、15 か所を超える地域の学術機関と共に、直接の共同研究および会議や技術的イベントへの取り組みを行っています。具体的には、京都大学、神戸大学、大阪大学、兵庫県災害医療センター、兵庫県こころのケアセンター、兵庫県立大学、神戸学院大学、滋賀医科大学、四天王寺大学、摂南大学、神戸市看護大学、関西福祉大学、姫路大学、甲南女子大学、奈良学園大学です。

アジア開発銀行の支援によるバングラデシュの地方自治体職員のフォローアップの視察は、2020 年に実施する予定でしたが、COVID-19 予防のための移動の制限と保健対策のため、2021 年末に延期されました。

災害・健康危機管理に関する WHO グローバルリサーチネットワーク（TPRN）事務局：WKC は、2019 年の代表者会議の提言に基づき、TPRN の推進に取り組みます。現在の活動を基に、地方、全国、および世界の Health-EDRM の専門家との共同研究を促進することに努めています。2021 年には、Health-EDRM のナレッジハブとして専用のウェブページを作成します。ナレッジハブにより、TPRN メンバーおよび一般市民に共有すべき最新の研究と証拠のデータベースが提供され、効果的な知識の統合と普及が可能になります。その結果、エビデンスに基づく優れた政策を作成できる可能性があります。2019 年のコアグループ会議の推奨に従い、COVID-19 のパンデミック等の感染症の発生に対する緊急対策を含む、Health-EDRM に関する WHO 研究アジェンダの開発を促進します。また、このネットワーク内で、2021 年には、COVID-19 関連問題のチャプターを追加して、研究方法のガイダンスを改訂する予定です。

目標 2: WKC の研究活動情報の広報と普及

WKC は今後も**最低年 3 回の WKC フォーラム**を開催する予定です。2021 年の活動予定は次のとおりです。

- 2021 年 2 月：第 8 回「高校生国際問題を考える日」を兵庫県教育委員会、大阪大学、および兵庫県内の高校が共催。地元生徒の能力開発のための地域貢献の一環として、WKC はパネルディスカッションの進行、生徒の研究のプレゼンテーション（動画）コンテストの審査などを行う。地元の高校 20 校からの生徒の参加が期待される。COVID-19 の影響で、会合は初めてオンラインで行う。
- 他に 2 つのフォーラムを開催予定であるが、今後神戸グループと協議し、同意を得ることが必要。COVID-19 流行下における Health-EDRM に関して可能性のある題目のオンライン・ワークショップを開催し、2020 年の公募研究結果に基づいた WKC の活動を共有する予定。このフォーラムには、学術研究者、政府関係者、最前線の医療従事者、NGO など異種のステークホルダーを招待し、一般市民も参加可能。

さらに、**ウェブサイトとソーシャルメディア**を利用して広報活動を強化し、地域社会と世界の読者の両方の多様なニーズの理解に努めます。携帯電話経由のサイト・アクセスが多いことを踏まえ、ユーザーインターフェースを改善し、ツイッターや YouTube への掲載を増やします。

WKC 設立 25 周年：WKC は 2020～21 年に、設立 25 周年を迎えます。これは、WKC の研究活動の情報をさまざまな読者に広報するチャンスです。この関連イベントは、2020 年 8 月 22 日（25 年前に最初の覚書に調印した日）頃から始め、まず、WKC ウェブサイトに特別ニュース記事を掲載しソーシャルメディア活動も行います。その後、WKC の研究活動に関する 2 つの記事を、日本の公衆衛生の研究者や開業医に広く読まれている 2 つのジャーナルに、2020 年 9 月と 10 月にそれぞれ掲載します。2020 年 8 月 21 日には、地方自治体および一般の方々への感謝を表し、さらなる地域貢献をコミットしつつ、兵庫県や神戸市の住民のために行っている地元での主要な研究と活動をまとめた小冊子を発行します。記事と小冊子を**添付文書 6**に示します（**添付文書 6、WKC 設立 25 周年記念出版**）。

設立 25 周年の記念イベントは、公式に 2021 年 3 月（WKC 事務所開設の日）まで行います。WKC の 25 年間の歩みについての特別小冊子を 2021 年 3 月までに発行し、ウェブストーリーとソーシャルメディア活動も同時に行います。

活字メディアの情報を拡大する：WKC は神戸新聞と良好な関係を築いてまいりました。神戸新聞は、TPRN 代表者会議の紹介に関する 3 件の記事および 2020 WKC フォーラムに関する記事を含め、Health-EDRM の研究および TPRN に対する WKC の活動を追跡してきました。2021 年も、神戸新聞および他の地方紙との連携が続くことを予想しています。WKC のウェブサイトが日本語で WHO の公式情報を提供する唯一の WHO 公式ウェブサイトであるという状況において、WKC の COVID に関する翻訳は、現在、多くの全国および地方のステークホルダーにとって不可欠な情報となっています。WKC は、神戸新聞の COVID-19 に関する特集記事（2020 年 4 月 28 日）に貢献しました。地方紙および全国紙は、「不安や迷信に対するアドバイス」に関する記事を広く載せ、WKC のツイートに言及した結果、ツイッターのフォロワーや閲覧者を増やしました。

各研究プロジェクトの広報計画：WKC は広報の専門家と連携し、各研究プロジェクトに合わせた広報の方法を採用しています。プランには、プロジェクト開始時と終了時のプロジェクト概要の更新、ソーシャルメディアやウェブサイトへの研究結果に関するメッセージの掲載、共同研究者に関するフィーチャー・ストーリーのビデオ・インタビューやソーシャルメディア・クリッピングへの掲載などがあります。広報計画では、各研究プロジェクトに対して、最小限となる一連の活動（プロジェクト概要、ニュース記事、研究結果のツイート）、特定の業務を強調するために WKC が実施できる選択的要素（ツイートストーム・キャンペーン、ウェビナー、メディアエンゲージメントなど）を使用します。2021 年には、広報計画を各プロジェクト・サイクルに組み入れて、可視性と普及を向上させ続けます。

目標 3：地域社会で健康の意識向上に努める

WKC は、**グローバル WHO 感染流行情報 (DON)** の和訳を今後も続けるとともに、その内容を神戸市および大阪の検疫所と協力して、専門家と一般市民に広めていきます。また、**前掲の兵庫県／神戸市の技術委員会や会議に参加することにより**、今後も地域社会との関係を強化します。相互理解と支援を確実にするため、神戸グループとのコミュニケーションの向上にも努めます。

COVID-19 に関する WHO ガイダンスと公開情報の翻訳・広報の継続：WKC は、COVID-19 に関する情報の和訳と広報に尽力を続けてまいります。これにはスタッフの取り組み、技術的および一般的ガイダンスの翻訳、ソーシャルメディアや媒体の管理が必要です。50 人を超えるボランティアの専門家が一次翻訳および翻訳のレビューを支援し、国際連合の日本の機関も和訳とその広報を支援しています。WKC は、この業務を遂行する能力を拡大するため一層の努力をします。これには、主要な関連性のあるガイダンスを選択し、翻訳と広報をより良くコーディネートして、この業務を簡素化する必要があります。また、神戸市および兵庫県と連携して、この情報を地方で効果的に広報し、情報共有を促進するよう努めます。

学校での講演：2020 年および 2021 年も引き続き、地元の小中学校、高等学校、大学からの個別要請に応じて、学校での講演を続けます。2020～21 年は、ほとんどがウェブセミナーの形式でオンライン講演になると予想されます。

地域でのコミュニケーションの強化：これまでの進捗状況のレビュー、および地元との連携強化の新しい機会の検討が進行中です。これらの活動の系統立てたレビューが、覚書で同意された通り、神戸グループ／WKC の中間評価の一部として行われることが最も重要です。このプロセスを通して、私たちは神戸グループおよび他のステークホルダーと連携して、共通の関心事を特定します。また、話し合いを通して、地元における連携強化活動の拡大を図っていく予定です。

WKC は継続して、地元との連携強化活動に重要な財源を投じる予定です。地元との連携強化に関する進行中及び将来的な活動には、広報、地域でのイベント、翻訳などがあり、これらを見積もると、2020/21 の 2 年間で 44 万 5,000 米ドルになります。関西共同研究（詳細は添付文書 1 を参照）に割り当てられた予算は、これに含まれません。